

【一】 出題の意図と対策

例年通り漢字の読み書きを出題した。

【解答】

- ①しろくと ②ぼうよ（み） ③しおかせ ④くらく
- ⑤支障 ⑥補助 ⑦温故 ⑧交（わる）

【解説】

①「素人」のような、小学校の学習範囲の漢字ではあるが、読み方が難しいことば（熟字訓など）の対策をしておきたい。

⑦「温故知新」のような四字熟語の読み書きも対策しておく。

【二】 出題の意図と対策

例年通り、文脈に合った適切な熟語を選び、書き取る問題を出題した。平素より使用場面を意識しながら熟語の知識を身につけるようにしておきたい。

【解答】

- ①安否 ②義務 ③議論 ④天然 ⑤興奮

【解説】

①無事であるかどうか：安否 ②当然しなければならぬこととめ：義務 ③筋道を立てて相手と話し合うこと：議論

④人の手が加えられていない状態：天然 ⑤気持ちが高まること：興奮

【三】 出題の意図と対策

小川洋子『遠慮深いうたた寝』からの出題。細分化された世界へのおどろきと感動、ならびに困惑が述べられている。個々のエピソードの理解と、本文全体の構成を問うた。

【解答】

- 問1 I ア
- II させる
- 問2 気持ちがやわらぐ
- 問3 エ
- 問4 ア
- 問5 ウ
- 問6 a 細分化
- b 困った事態を引き起こす

【解説】

問1 I 「あぜんとする」は、おどろきやあきれから、声も出せなくなるという意味なので、アが正解である。

II 主語と述語の関係を考える。書き手である筆者が、つまようじ職人に、「ああ、いい人生だった」というせりふを述べ「させる」のである。

問2 直前に、「物事がどんどん細分化されてゆくととき、私は何とも言えず気持ちがやわらぐ」と述べられている。また、次の段落には「逆に、……とたんに元気がなくなる」とあり、第九段落に「困った事態を引き起こす」と述べられている。これらと対応させると、世の中のあり方が、「私」の心が望んでいる姿に移り変わっていることを述べていると考えられる。

問3 傍線部と同じ段落と直後の段落に注目する。パリやウィーンのせまい通りに立ちならぶ店には「勲章屋、標本屋、名刺

印刷屋、地図屋、楽器修理屋、古絵はがき屋」などがあり、「そこは、最小単位にまで細分化された場所」で、「これ以上は無理、というところまでいったときに残される一ますがその店」であると述べられている。店で売っている品物が、最小単位まで細分化されているところに魅力を感じ、たとえ自分には無関係なものを商っている店でも、思わず中をのぞいてしまうのである。したがって、エが正解である。

問4 「私」が困惑を覚える複雑さをともなった細分化の事例として、「きつぷを買う」ときと「テレビ」を挙げているので、並立的な働きをする「あるいは」があてはまる。したがって、アが正解である。

問5 第十一〜十三（最終）段落の内容に注目する。昔のテレビは「電源とチャンネルと音量のつまみ、それだけだった」のに対し、最近のテレビにはリモコンが付きもので、それらには十分に細分化された機能が搭載されているにもかかわらず、今後も増えていくと思われ、「私」はとまどいを覚えているのである。したがって、ウが正解である。イは、「操作の手順をまったく理解できない」が、エは、「最近のテレビの機能がきめ細やかになったのを喜ぶ」が、それぞれ誤りである。

問6 本文の前半（第一〜八段落）では、細分化された世界へのおどろきや感動が述べられているのに対し、本文の後半（第九〜十三段落）では、複雑さをともなった細分化への困惑が述べられている。第九段落のはじめの「しかし細分化は、とくに複雑さをともなっている場合があり、困った事態を引き起こす。」という一文が要旨を短くまとめている。

【四】 出題の意図と対策

草野たき『マイブラザー』からの出題。海斗は、パン職人になるために一人で修業をしている父に不満をもっていたが、父と二人きりで話をする中で、父に積極的に向き合おうとする心が芽生える。設問では、父子の関係と、海斗の父への心情の変化を中心に問うた。

【解答】

- 問1 I ア
- II イ
- 問2 ウ
- 問3 a (例) 意志・希望
- b (例) 決めた・選んだ
- 問4 イ
- 問5 エ
- 問6 I (例) これから人生をやり直そう
- II (例) 家族とのきずなを大切にす
- 問7 (例) 私が海斗の立場ならば、父がなぜ決意したのかを本人によく聞く。そのうえで、自分にできることはないか声をかけて、他の家族とも協力して父のことを応援しようとする。

【解説】

問1 I 「うながす」とは「そうするようにすすめる」という意味である。

II 「そうしようと思ってもできない」という意味のことばは、「余地がない」である。

問2 本文全体を通して、海斗の父が「ひどく緊張」しながら、「聞きたいこと、なんでも聞いてくれていいぞ」と質問をうながした理由を考える。父は、家を飛び出しパン職人を目指すという行動をとったことについて、息子から責められてもしかたのない立場にあることは重々承知しており、激しい非難を覚悟していたものと考えられる。また、自分が何のため、にパン職人を目指すのかも切々と語ったことも踏まえると、

久々に再会を果たした海斗と腹を割って話をし、こわれた関係を改善しなかったものと考えられる。以上から、ウが正解である。

問3 傍線部より後の場面で、父は「自分の人生なのに、ずっとおじいちゃんが喜ぶかどうかで、大事なことを決めてきてしまった」と話している。仕事も、祖父の顔をうかがいながら決めたと思われる。このことから、「自分がやりたくて、やってる仕事」とは、「自分の意志（希望）で決めた（選んだ）仕事」と言いかえられる。

問4 海斗は、父がパン職人を目指し、家族を養うことを第一に考えず、父親としての役目を投げ出したことを、「親として、大人として、ありえない」と激しく責めているが、海斗自身も受験勉強という自分の目標から逃げた過去がある。そのため、「サイテーだな」と父に投げかけたことばは、そのまま海斗自身への評価にもなったことをおさえる。したがって、イが正解である。

問5 ※の直後に「今度は、黙ってあきらめたりしないからな」とあることに注目する。海斗には、中学受験を断念した苦い過去があったが、父の、パン職人という人生の道を自らの意志で選択し、生まれ変わろうとする姿に影響を受け、自分もあきらめずに前向きに努力し、自らが願う人生の道を進もうと決意している。したがって、エが正解である。

問6 海斗は、父の話を十分に聞いたので「質問したいこと」がなくなつたのである。父が「人生は何歳からでもやりなおせる」というかたい信念の下、「新しい父さんを見ていてほしい」と宣言したことや、「父さんの人生に、母さんやおまえたちがいてくれることのありがたみが、やっと思感できるようになった」、「家族として、父親としてもう一度、受け入れてもらえるようになりたい」という父の発言で、海斗は父に対して次第に行く末を見届けようという気持ちになつたのである。

問7 あなたが、父の決意を聞いたときにどのように考え、接していくのかを簡潔にまとめてみるとよい。